

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要 【台東区総合学力調査】
 調査対象 台東区蔵前小学校 第5学年
 実施日 令和4年4月18日
 実施教科 第5学年 国語

第5学年 国語

1 結果の分析

(1)結果の概要

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

どの観点も目標値、区、全国の数値を上回っている。主体的に学習に取り組む態度については、上回るものの数値が低い。

◇正答率度数分布グラフから

90%の値が高くなっている一方で、0%~10%の値がある。

分類	区分	平均正答率(%)			
		本校	目標値	区	全国
評価の観点	知識・技能	72.6	66.4	71.5	70.2
	思考・判断・表現	67.0	62.7	65.8	61.9
	主体的に学習に取り組む態度	51.4	50.0	49.3	43.5

(2)結果から明らかになった課題

国語	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	○知識・技能 ・言葉の学習では目標値が40.0%に対して、正答率が23.1%と低い。 ・連用修飾語についての理解が不十分である。 ○思考・判断・表現 ・物語の内容を読み取るでは60.0%の目標値に対し、正答率51.6%となっており、目標値よりも大幅に低い。 ・叙述を基に登場人物の気持ちを読み取ることができていない。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・内容の中心を明確に聞き取り、考えをまとめることができていない。	→連用修飾語の意味と使い方の理解が不十分であること。 →叙述を基に登場人物の気持ちを捉えることが難しいこと。 →話す側、聞く側の役割を理解する。自分の考えを発表する。

2 改善策

(1)具体的な改善策

国語	○知識・技能 ・修飾語の意味と適切な使い方を書く言語活動を通じて、適切に用いることができるようにする。
	○思考・判断・表現 ・登場人物の相互関係や心情を読み取るために、叙述や描写を基に捉えることができるようにする。 ・人物像や物語の全体像を具体的に想像し、登場人物の気持ちを捉えることができるようにする。
	○主体的に取り組む態度 ・発表をする時や聞く時の大切な観点を示し、活用する。考えを共有できるよう発表の場を設けて、意欲の向上を図る。

(2)改善策(手だて)に対する検証

文型や話型を示したり、話し合い活動を取り入れたりして発言やノートの記述から学習内容の定着を見取る。

単元末のテストでの正答率を85%に設定し、振り返りを確実に行う。